



MIKUNI VM26 キャブレターキット 取扱説明書

商品番号	: 03-05-0152(キャブレターキット)
	: 03-02-015 (マニホールドキット)
適応車種	: XLR125R
フレーム番号	: JD16-1000001~

- このたびは、TAKEGAWA商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願いいたします。
- 取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

ご使用前に必ずお読み下さい

取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、当社は賠償の責を一切負いかねます。

この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どの様な事柄でも一切負いかねます。

商品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。

他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。

キャブレターは、天候・湿度・気温・自然現象および車体差、キャブレターの個体差等によりセッティングを変更する必要があります。個々のエンジン、条件に合ったセッティングを行って下さい。尚、キャブレターは次ページの状態で出荷しております。

△ 注意	この表示を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。
・一般公道では、法的速度を守り違法運転を心掛けて下さい。 (法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。) ・作業を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行って下さい。 (火傷の原因となります。) ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。 (部品の破損、ケガの原因となります。) ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行って下さい。 (ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。) ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行って下さい。 (ケガの原因となります。) ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行って下さい。 (部品の脱落の原因となります。) ・ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。	

△ 警告	この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
・エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。 (一酸化炭素中毒になる恐れがあります。) ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。 (事故につながる恐れがあります。) ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行って下さい。 (作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。) ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。 (不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。) ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つかれば、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。 (そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。) ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行って下さい。	

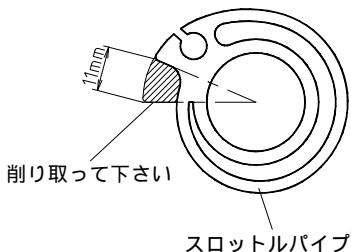
性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

フレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

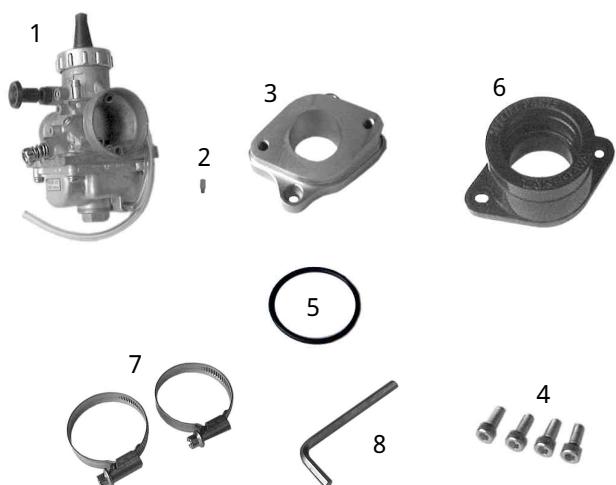
~取り付け要領~

1. 水平で安全な場所でレーシングスタンド等を用いて車両を安定させます。
2. フューエルコックを閉じてキャブレターのドレンコックを開き、フロートチャンバー内のガソリンを受け皿に抜き取ってから、フューエルチューブの接続を外します。
3. キャブレタートップを外し、スロットルバルブを取り外します。
4. スロットルバルブスプリングを圧縮し、スロットルケーブルをスロットルバルブから取り外します。
5. スロットルハウジングの2本のパンスクリューを緩め、スロットルパイプをハンドルから取り外します。スロットルパイプを下図のように加工して下さい。加工したスロットルパイプをハンドルに付け、スロットルワイヤーを付け、スロットルハウジング挿んで、2本のパンスクリューを規定トルク4 N・m(0.4 kgf・m)で締め付けます。



6. エアクリーナコネクティングチューブバンドのスクリューを緩め、キャブレターマウントナットを外して、キャブレターを取り外します。インレッパイプボルトを外し、インレットパイプを取り外します。
インテイクポート内に異物が入らないように注意して下さい。
7. VM26キャブレターのフロートチャンバーを外し、付属のパイロットジェットに交換してフロートチャンバーを取り付けます。
キャブレタートップを外し、スプリング、ニードルクリップリーター、スロットルバルブを抜き取ります。
8. STDのスロットルケーブルにキャブレタートップを取り付け、スプリングを入れてスロットルバルブに、取り付けます。ニードルクリップリーターを、スプリングとスロットルバルブの間に取り付けます。スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせて、キャブレターに取り付けます。スロットルを数回スナップさせ、スロットルバルブの開閉状態を確認して下さい。
9. キャブレターをインシュレーターに差し込み、バンドを締め付けて、固定します。
10. キャブレター、シリンダーヘッド間に、O-リングを取り付けたインレットパイプを入れ、シリンダーヘッドにソケットキャップスクリューで規定トルク10 N・m(1.0 kgf・m)で締め付けます。インシュレーターをインレットパイプにソケットキャップスクリューで、規定トルク10 N・m(1.0 kgf・m)で締め付けます。
11. スロットルの遊びがグリップ部分で5 mm程度になるようにスロットルケーブルを調節します。
12. フューエルチューブを接続し、チューブクリップを取り付けます。フューエルコックを開いて各部からのガソリンの漏れの有無を確認します。
13. スロットルバルブの引っ掛けり等が無い事を確かめ、ショーケバーを引き、エンジンを始動させます。回転がスムーズになるまで暖機運転を行い、ショーケバーを戻します。エンジン暖機後アイドリングしない場合や、アイドリング回転が高い場合は、スロットルストップスクリューで調節します。
14. 安全な場所で十分注意し、個々に合ったセッティングを行って下さい。

~商品内容~



番号	Parts Name	Qty
1	キャブレターASSY.	1
2	パイロットジェット #17.5	1
3	インレットパイプ	1
4	ソケットキャップスクリュー 6×15	4
5	Oリング	1
6	インシュレーター	1
7	バンド	2
8	6角棒レンチ 5mm	1

印はマニホールドキットの内容を示しています。

メインジェット	#190
パイロットジェット	#22.5
ジェットニードル	5E75
クリップポジション	3段目
スロットバルブ	#1.5
エアースクリューオープニング	1-1/4

株式会社 **SPECIAL PARTS** 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号

TEL 0721-251357

FAX 0721-245059

お問い合わせ専用ダイヤル 0721-258857

URL <http://www.takegawa.co.jp>

キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
<ul style="list-style-type: none">・爆発音が重い感じで断続する。・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。・クリーナーを外すと調子が良くなる。・排気ガスが濃い。(黒い)・プラグが黒くくすぶる。	<ul style="list-style-type: none">・エンジンがオーバーヒート気味になる。・チョークを作動すると、調子が良くなる。・加速が悪い。(息付きをあこす)・回転変動があり、力がない。・プラグが白く焼ける。

キャブレターのセッティングは暖機後を行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。
エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

ジェットニードル（スロットル開度1/4 3/4）

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がりが重く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目に下がるにつれ混合気は濃くなります。



メインジェット（スロットル開度3/4 4/4）

この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。
仕様等を考慮の上、最高回転数（最高速度）の得られる物を選んで下さい。

パイロットジェット（調整前にまずエアスクリューを調整して下さい。）

- ・エアスクリューの戻し量3.0回転以上の場合は、パイロットジェットを小さくして下さい。
 - ・エアスクリューが全閉になる場合は、パイロットジェットを大きくして下さい。
- パイロットジェットはアイドリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、パイロットジェットが小さ過ぎます。（アイドル回転時）
 - ・排気が濃く排気音が重い場合、パイロットジェットが大き過ぎます。（アイドル回転時）
 - ・パイロットジェット交換時には、エアスクリューの再調整が必要です。

エアスクリュー

エアスクリューはスロー系の空気流量を調整します。（アイドリング時）

- ・エアスクリューを右に回す 混合気が濃くなる。
- ・エアスクリューを左に回す 混合気が薄くなる。

標準戻し回転数（1.5回転）に合わせ、左右に1/4 1/2回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。

アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さい。